

令和6月22日付【日本下水道新聞】
水コン協関東支部が50周年・第12回通常全体協議会
＜新支部長に日本水工設計菅原氏＞

水コン協関東支部が50周年

新支部長に日本
水工設計菅原氏

第12回通常
全体協議会

全国上下水道コンサルタン



菅原新支部長

は、日本水工設計の菅原一孝取締役東京支社長が支部長に就任した。支部会員数は4月1日現在46社（うち本社支部会員37社、支店等支部会員9社）。

ト協会関東支部は5月18日、都内で第12回通常全体協議会と関東支部50周年記念式典を開催。就業環境の改善を継続して進めるため、支部要望活動などを盛り込んだ令和4年度事業計画を報告した。任期満了に伴う役員選任で

冒頭あいさつで間山一典支部長は、「昨年、全体協議会が書面にて行われたが、今年はWeb併用で工夫しながら実施している。このような状況下ではあるが、将来に向けて希望の持てる協会活動を行ってきたい」と述べた。

昨年12月9日より小田原市と上下水道施設の災害時支援協定について協議を開始。令和4年1月31日には大和市と「災害時における下水道施設の技術支援協力に関する協

定」を締結している。

今年度は、関東支部設立50周年記念小史の作成し、事業体へ配布を行う。また、JSC・コンサルタント実務責任者会議や下水道事業座談会の開催、災害時支援協定締結都市との連携活動を継続して行う予定。

歴代支部長ら激励
花木教授招き講演

設立50周年
式典を開催

同日開催された関東支部設立50周年式典では、歴代の支部長によるあいさつや、東洋大学情報連携学部の花木啓祐教授による記念講演が行われた。

菅原一孝新支部長は「関東支部は、今年で50周年を迎える。水コンサルタントを取り

替く環境は、業務内容の領域が拡大するなど、大きな転換期を迎えている。これまでの経験と知識を基に、さらなる技術力向上や人材育成を行い、転換期に対応することが重要。100周年を目指して進化していきたい」と意気込んだ。

来賓祝辞として同協会の村上雅亮会長のほか、清水慧第4代支部長、野村喜一第6代支部長、菅伸彦第7代支部長ら歴代支部長が登壇。村上会

長は「関東支部が当協会のけん引役になるよう、さらに活躍していただきたい」、清水



花木教授

氏は「水コンサルタントは、新たな役割を求められるようになったが、今後も市民の安全安心を支えていただきたい」、野村氏は「支部活動が活発になることが、本部の発展につながる」と感じる。本部を支えるように関東支部の活躍を期待したい」、菅氏は「水コンサルタント業界が尊敬され、将来なりたい憧れの職業となるよう尽力を」と述べた。

花木教授は「脱炭素社会への変革期の下水道」と題し、脱炭素社会実現に向けた戦略を提示。2030年までは、既存の施設更新計画を踏まえて対策を実施する一方で、2050年までには、他事業も含め地域バイオマスや栄養塩の循環利用等を含めた下水道理の方針見直しが必要であると指摘した。